

日本旧石器学会 ニュースレター 第30号 NEWS LETTER No.30

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第13回大会の開催（報告）

2015年度日本旧石器学会第13回大会が、2015年6月20～21日、宮城県仙台市の東北大学片平キャンパス・片平さくらホールを会場として開催された。今回の大会は、日本旧石器学会としては、はじめて東北地方で開催する大会であり、東北大学大学院文学研究科との共催として開催された。

総会 6月20日13時から日本旧石器学会総会が行われた。冒頭、佐藤宏之会長から挨拶があった。その後、事務局より委任状79通、当日出席者は41名であること、その合計が会員数の5分の1以上に達することから、総会は成立することが報告された。そして、事務局推薦により阿子島香会員が議長に選出された。

議事は、各委員会より2014年度活動報告と2015年度活動計画の報告が行われ、若干の質問・要望事項について審議した後、採決により承認を得た。各委員会報告・審議事項は本ニュースレター2～7頁に掲載している通りである。次に2014年度の日本旧石器学会賞の受賞者が発表された。学会賞は須藤隆司氏、奨励賞は鹿又喜隆氏・森先一貴氏に贈られた。授賞式では、佐藤会長から、各受賞者に賞状等の贈呈がなされた。このほか、佐藤会長より、2016年に国立科学博物館ほかで開催される『ラスコー展』に学会として協力する旨の報告があり、承認された。

一般研究発表 総会に続き、一般研究発表が行われた。発表者は海部陽介・張鈞翔・高井正成・河野礼子・松浦秀治氏、内藤裕一・D. G. Drucker・C. Wissing・力石嘉人・大河内直彦・P. Semal・H. Bocherens氏、野口淳・横山真・千葉史氏、高倉純氏、大塚宜明・上峯篤史・金成太郎・栗本政志氏、橋詰潤氏である。

シンポジウム シンポジウム『更新世末の東北日本における環境変動と人類活動』は、6月20・21日の両日にわたって実施された。20日には、研究企画委員会の芝康次郎委員長による趣旨説明があった。シンポジウムは、東北日本における更新世末の石器や人類集団の動きと変化について、石器群の変遷、遺跡構造の検討、環境変化、そして周辺地域の様相との対比などから解

明することを目指したものであることが述べられた。

21日は、計7本の基調報告が行われた。発表者は、吉川昌伸氏、佐久間光平氏、川口潤氏、赤井文人氏、仲田大人氏、加藤学氏、沢田敦氏である。議論の基軸となる編年、石材利用や遺跡構造などの人間活動について、周辺地域の様相や、背景となる植生環境の変遷とともに議論が交わされた。

ポスターセッション ポスターセッションは、20・21両日行われ、コアタイムが21日12時45分から13時45分の間に設けられた。計12本の発表があり、とくに若手研究者の発表が目立った。報告者は、鹿又喜隆氏、越知睦和・沖野誠・平ノ内武史氏、熊谷亮介氏、山岡拓也氏、杉原保幸・高橋康・牧野州明氏、中村由克氏、村椿篤史・熊谷亮介氏、及川穰・隅田祥光・池谷信之・稲田陽介・亀井淳志氏、芝康次郎・及川穰・亀井淳志・角縁進・隅田祥光・船井向洋・一本尚之・越知睦和・稲田陽介氏・腰岳黒曜石原産地研究グループ、岩瀬彬・森先一貴・出穂雅実・米田寛・廣松滉一氏、菊池強一・黒田篤史・小向裕明・武田良夫・佐川正敏氏、門脇誠二氏である。

資料展示 ポスターセッションと同じ会場にて、東北大学が収蔵・保管する旧石器時代資料の展示が行われた。学史上著名な長崎県福井洞穴遺跡の石器群をはじめ、貴重な資料の数々が展示され、手にとって観察することができるまたとない機会となった。実資料を前に、大いに議論が進んだように見受けられた。



写真1 2014年度日本旧石器学会賞授賞式

大会は、延べ173名の参加を得て盛会の裡に無事終わることができた。日本旧石器学会として、第7回(2009年、鹿児島)、第10回(2012年、奈良)に次いで3度目の地方開催の大会である。関係者のご苦労は多大なものと同様に推察されるが、今後も、学会活動を広く周知していくために、日本各地での開催を積極的に行うべきであろう。(記録: ニュースレター委員会野口記)

2014年度委員会報告

総務委員会 2014年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

- (1) 会員情報の管理
- (2) 2014年度総会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整
 - ・総会: 2014年6月21日(土) ルネこだいら小平市民文化館中ホール
- (3) 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整
 - ・役員会: 2014年5月17日(土) 日本大学文理学部3号館5階3506教室
- (4) 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整
- (5) 会誌(「旧石器研究」第10号)、ニュースレター(第27・28・29号)、各種学会連絡文書の発送
 - ・会誌発送: 2014年7月5日(土)
 それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。
- (6) 日本考古学協会総会図書交換会等におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布
 - ・図書交換会: 2014年5月18日(日)
- (7) 新入会員の入会・住所変更等に関する事務
 - ・2015年6月15日現在の会員数は、241名である。
- (8) 2015年度総会会場に係る東北大学との調整(研究会企画委員会連携)
- (9) 研究グループ支援制度に関する事務
 - ・「沖縄更新世人類研究グループ」(研究代表者 山崎真治氏)の採択及び第4年度の支援



写真2 シンポジウム・パネルディスカッション風景

- ・「南アジアの旧石器時代遺跡研究グループ」(研究代表者 野口淳氏)の採択及び第3年度の支援
 - (10) 日本旧石器学会賞に関すること

・2014年度総会において2013年度の学会賞・奨励賞の授賞式を行った。また、2014年度の学会賞、奨励賞選考に係る事務を行った。

工程 2014年8月 ニュースレター第27号で「学会賞推薦」の募集(9月15日～11月30日)。12月 ニュースレター第28号で「学会賞推薦」の再募集(2015年1月20日～2月20日)、8通の推薦。4月19日 選考委員会を開催した。6月20日 総会にて授賞式を行う。

- (11) メーリングリストに関すること

・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストを運用している。

・1月18日、役員間のコミュニケーション並びに学会活動の活性化としての情報伝達、意見交換、及び役員会を補完する役割としての報告、協議の場として役員用メーリングリストを設置した。

会計委員会 2014年度の会計委員会の活動は、以下の通りである。

[総会・役員会時] 会議費、旅費交通費、謝金の各種支払。研究グループ運営経費の支出。各委員会の立替金清算。会費の徴収。学会刊行物の頒布(総務委員会と協同)。現金収入(会費・刊行物頒布収入)の学会口座への預入。

[通年] 会費収入および刊行物頒布収入の管理。会員ごとの会費納入状況の管理。会費納入・住所変更等諸連絡の総務委員会への報告。学会口座出納の管理。会誌10号、シンポジウム予稿集、ニュースレター(26・27・28号)の印刷費/発送費の支払。HP管理+メーリングリスト構築運用の委託費の支払。日本旧石器学会賞関連経費の支出。次回APA日本大会への経費の積立、予算の検討。

- ・2014年度決算(資料1参照)

[会費収入] 2014年度内の会費の納入状況は、のべ252件(会員数のべ244人)である。

[その他の収入(刊行物頒布収入)] 刊行物は、日本考古学協会・日本旧石器学会総会時の頒布や委託販売により、予算額を上回る収入がある。

[支出] 各費目とも、予算額の範囲内で執行できている。

[特別会計報告] 前年度に続き次回APA(アジア旧石器協会)日本大会の経費を積立てている。(資料2参照)

[会計監査] 2015年6月7日に、熊本県錦町において、会計監査委員より会計監査を受け、会計が適正に執行されている旨の報告を受けた。(別紙資料省略)

会誌委員会 会誌委員会では、2014年度の活動として会誌

『旧石器研究』第11号の編集・刊行を行った。花粉分析を中心とした古環境研究の最前線を紹介した総説をはじめ、研究企画委員会の協力も得ながら会員諸氏による多彩な内容の論文や資料報告を掲載することができたが、通年より原稿集約や編集作業に時間がかかり、前号より遅れて5月31日の刊行となった。次号は早めの原稿確保と編集期間の見直しに努め、例年どおり日本考古学協会図書交換会での会誌頒布が可能となるように努めたい。

ニュースレター委員会 2014年度はニュースレター第27号、第28号、第29号の編集・発行を行った。主な内容は下記のとおり。

第27号 2014年8月：日本旧石器学会第12回大会の開催（報告）、2013年度委員会報告、2014年度活動計画、2013年度日本旧石器学会賞受賞者報告、2014年度学会賞の推薦、「日本旧石器学会研究グループ内規」の一部改正について、2014年度日本旧石器学会役員会、お知らせ（平成26年度普及講演会のお知らせ、会費納入・住所変更手続きのお願い、メーリングリストの運用について）

第28号 2014年12月：第7回アジア旧石器協会韓国大会、2013年度日本旧石器学会賞受賞者報告、2014年度日本旧石器学会普及講演会開催報告、学会賞の推薦について（再募集）、九州旧石器文化研究会第40回記念大会開催報告、お知らせ（日本旧石器学会研究グループの募集、2015年度総会研究発表・ポスターセッション発表の募集、会費納入・住所変更手続きのお願い、メーリングリストの運用について）

第29号 2015年5月：インドにおける旧石器時代研究の動向、APA新執行体制について、日本旧石器学会研究グループ2014年度活動報告、国際第四紀学会第19回名古屋大会（2015.7.27-8.2）について、岩宿フォーラム2014シンポジウム開催報告、2015年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウムのプログラムについて、お知らせ（会費納入・住所変更手続きのお願い、メーリングリストへの登録について）

渉外委員会 2014年度には以下の活動を行った。

・2014年11月12日～15日に開催されたAPA韓国・公州大会の連絡・参加：会員への韓国大会に関わる連絡と大会実行委員会との調整を行った。会員による合計15本（口頭14、ポスター1）の発表があり、活況であった。詳細は、ニュースレター第28号掲載の小原俊行会員の参加記を参照。

・APA韓国・公州大会中に開催されたAPA執行委員会：11月14日に4か国代表により、APA執行委員会が開催された。重要な議題は以下の2点である。（1）次期（2015年1月1日～2016年12月末）の執行体制が決定した。中国のXing Gao教授が新会長に選ばれ、小野昭前会長は2014年末で退任となった。（2）次回大会から、これまで毎年開催していた大会を2年ごとにするのが正式に決定した。そのため、

次回APA日本大会は2016年の開催となった。この他、現在4か国からなる加盟国をさらに増やすかどうかについて意見交換があった。執行委員会の詳細はニュースレター第29号掲載の佐藤宏之会員（APA副会長）の報文を参照。

・2016年に開催予定のAPA日本大会に関連する準備・連絡：2015年6月に2016年APA日本大会実行委員会を立ち上げるまでの期間、実行委員会準備会を設置することを役員会に提案して承認を得た。準備会のメンバーは会長・副会長・総務委員会・研究企画委員会・渉外委員会で構成することとした（12名）：佐藤宏之、藤野次史、伊藤健、山岡拓也、芝康次郎・森先一貴・藤田尚・高倉純・鈴木美保・絹川一徳・野口淳・出穂雅実（委員長）。また、実行委員会委嘱委員として、佐野勝宏会員を迎えた。

以下の点を実行委員会準備会で審議し、APA執行委員の各国の連絡担当に1stサーキュラーを送付した。開催日程は2016年6月24日（金）～28日（火）の5日間。開催場所は、東京開催。会議のタイトルはRecent Progress of the Paleolithic Research in Asia。

研究企画委員会 2014年6月に東京都小平市において、第12回日本旧石器学会講演・研究発表・シンポジウムを開催した。シンポジウムテーマは『石材の獲得・消費と遺跡群の形成』。

2014年9月ごろより、第13回旧石器学会シンポジウムの準備を始める。12月にシンポジウムテーマ、発表者について最終決定。2015年2月に一般研究発表、ポスターセッションの募集を開始。第13回大会には、研究発表の応募が10本、ポスターセッションの応募が8本と例年よりも多数の応募があった。プログラムの関係から、最終的に、一般研究発表6本、ポスターセッション12本（4本は研究発表から変更）と決定した。

データベース委員会

（1）オンラインでの公開に向けた準備。2010年に刊行された『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器（先土器・岩宿）時代遺跡のデータベース—』（旧石器DB）を学会ホームページ上にアップするために、デジタルデータ（本文pdfと表csv）を準備した。アクセス権限は、原則フリーアクセスとすることにした。

（2）旧石器DBのウェブ公開のために、執筆者各位から予め公開の許可をいただいた。

入会資格審査委員会 2014年度は、長崎潤一氏、副島和明氏、鈴木敏中氏、塚田清啓氏、稲田陽介氏、安彦政信氏、河野礼子氏、黒田篤史氏、小野章太郎氏、村椿篤史氏、洪惠媛氏、熊谷亮介氏の12名の方の審査がなされ、全ての方が会員として承認された。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR、普及講座の実施、教科書問題への取り組み、HPの更新、関連学

資料1 日本旧石器学会 2014 年度決算(単位:円)

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,215,000	1,260,000	45,000	08年度1名、09年度1名、10年度3名、11年度6名、12年度10名、13年度29名、14年度187名、15年度9名、16年度以降のべ6名(合計252件)
2 その他の収入				
会誌頒布代金	300,000	326,400	26,400	会誌10号58部、バックナンバー35部
シンポジウム予稿集頒布代金	156,000	229,500	73,500	第12回予稿集131部、バックナンバー46部
その他収入	0	33,880	33,880	
前期繰越収支差額	1,782,022	1,782,022	0	
小計①	3,453,022	3,631,802	178,780	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	80,000	27,312	-52,688	総会シンポジウム・役員会等会場費、考古学協会図書交換会卓代
旅費交通費	90,000	42,000	-48,000	総会シンポジウム発表者交通費補助
通信運搬費	250,000	147,194	-102,806	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、他
消耗品費	30,000	15,190	-14,810	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,150,000	1,129,690	-20,310	会誌、シンポジウム予稿集、ニュースレター3件、他
諸謝金	50,000	10,000	-40,000	シンポジウム討論テープ起こし謝金
委託費	64,800	64,800	0	HP管理・メールリスト構築運用委託
次回APA日本大会経費積立	200,000	200,000	0	
研究グループ運営経費	30,000	30,000	0	1件(南アジアの旧石器時代遺跡研究グループ)
シンポジウム開催準備費	30,000	15,422	-14,578	シンポジウム関連備品
日本旧石器学会賞関連経費	90,000	80,328	-9,672	賞状、副賞、他
雑費	25,000	21,476	-3,524	郵便振替、銀行振込手数料、他
予備費	1,363,222	0	-1,363,222	
小計②	3,453,022	1,783,412	-1,669,610	
次期繰越金小計①-小計②	0	1,848,390	1,848,390	

資料2 日本旧石器学会 2014 年度特別会計報告(次回 APA 日本大会経費積立)(単位:円)

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 積立金収入				
積立金収入	200,000	200,000	0	2014年度 次回APA日本大会経費積立金
2 その他の収入				
	0	0	0	
前期繰越収支差額	400,000	400,000	0	
小計①	600,000	600,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
次回APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
小計②	0	0	0	
次期繰越金小計①-小計②	600,000	600,000	0	

会情報の提供や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行った。

1. 普及講座を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努めた。

西日本会場：2014年10月12日(日)、大阪歴史博物館4F講堂(島根県、隠岐ジオパーク推進協議会と共催)

- ・講演 絹川一徳「二上山のサヌカイトと旧石器文化」
- ・講演 丹羽野裕「隠岐の黒曜石とその広がり」
- ・ミニ対談 絹川一徳×丹羽野裕

東日本会場：2014年10月25日(土)、東京都埋蔵文化財センター(明治大学黒曜石研究センターと共催)

- ・旧石器学会賞受賞記念講演：堤隆「氷河時代の狩猟採集民

- 列島最古の現生人類はどう生き抜いたか -

- ・トークセッション 「日本列島の旧石器時代」佐藤宏之×伊藤健×堤隆

2. HPでは、旧石器学会、講演・共催事業・関連学会等の情報提供をはじめ、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加した。

3. その他 共催・講演事業

- ・キルギス旧石器講演会、主催：科研費「ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学」研究グループ(東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室)、日時：2015年3月22日(日)、場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館

- ・国際第四紀学連合(INQUA)第19回大会、主催：日本第

四紀学会・国際第四紀学連合第19回大会組織委員会、日時：2015年7月27日（月）～同8月2日（日）、場所：名古屋市 名古屋国際会議場

・第2回シンポジウム「小・中学校段階における歴史学習と考古学の役割」、主催：日本考古学協会、日時：2014年11月8日（土）、場所：東京学芸大学

・第9回日本考古学協会公開講座～考古学から見えてきたふるさとの歴史～「東京都鈴木遺跡 現在・過去・未来」、主催：日本考古学協会、日時：2015年3月7日（土）、場所：ルネこだいら

2015年度活動計画

総務委員会 経常的な会務に加え、以下の諸課題に取り組む。

（1）日本旧石器学会賞に関すること

工程 2015年8月 ニュースレター第30号で「学会賞推薦」の告知。2016年4月頃 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定。5月 日本考古学協会総会時の役員会で、決定。6月 日本旧石器学会総会にて授賞式
学会賞の推薦件数が少ないので、会員諸氏には積極的な推薦をお願いする。

（2）研究グループ

「日本旧石器学会研究グループ内規」に基づき、「沖縄更新世人類研究グループ」（研究代表者 山崎真治氏）の採択及び第5年度の支援を提案する。なお、運営費の交付は3カ年を限度としている。また、新規の応募はなかった。

日本旧石器学会規定の整備に伴い、「日本旧石器学会研究グループ内規」の名称は「日本旧石器学会研究グループ規定」に変更する。

（3）役員選挙に関すること

選挙管理委員については都築恵美子会員、加藤秀之会員、塚田清啓会員に委嘱する。

工程 2015年12月 ニュースレター第31号で告示。2016年1月 立候補等の受付。2月 投票用紙の送付。4月 投票・開票。5月 ニュースレター第32号で結果のお知らせ。

会計委員会 基本的には2014年度と同様の会計行為・会計管理をおこなうが、加えて、2016年度に開催が決定されているAPA日本大会の予算について検討を深める。また、学会会計の健全化のために、各役員・委員会と連携を強化し、会費未納者への積極的な納入督促等の活動にも取り組んでいきたい。

・2015年度予算（資料3参照）

[収入] 会費収入は、前年度と同様、現在の会員数に年会費をかけて計上している。刊行物頒布収入は、ここ数年の頒布実績をもとに前年度と同額からやや増額して計上している。

[支出] 各費目は、基本的に前年度の実績を参考に今年度の必要経費を加えて所要額を計上している。会議費・会場設営費、旅費交通費、通信運搬費、印刷製本費は、今年度の事業計画に基づき増額している。委託費は、今年度の事業想定から同額に据え置いている。消耗品費は前年度の実績により、諸謝金、シンポジウム開催準備費は今年度の事業想定により、日本旧石器学会賞関連経費は初年度の必要経費分を差し引き、それぞれ減額している。次回APA日本大会経費積立は、1年後に迫った日本大会に向け前年度と同額を積立予定である。研究グループ運営経費は、今年度は運営費を申請するグループの応募がないため計上していない。

会誌委員会 これまでと同様、会誌第12号が充実した内容となるよう責任ある編集体制の維持に努め、会誌の円滑な刊行を図りたい。また、総会でも要望があったが、地質学や生物学などの旧石器研究と関わりが深い分野の論文・総説、欧米で刊行された専門研究書などの書評等について、会員諸氏の協力のもと短・中期的な計画をもって原稿の確保に努め、会誌へ継続的に掲載すべく尽力したい。

※会誌『旧石器研究』第12号（2016年5月刊行予定）への投稿は2015年11月末までをお願いします

ニュースレター委員会 2015年度はニュースレター第30号、第31号、第32号の編集・発行を行う。主な内容は下記のとおり。

第30号 2015年9月：日本旧石器学会第13回大会の開催（報告）、2014年度委員会報告、2015年度活動計画、2014年度日本旧石器学会賞受賞者、2015年度日本旧石器学会役員会、日本旧石器学会賞推薦受付の告知、お知らせ

第31号 2015年12月：国際第四紀学会第19回名古屋大会（報告）、2014年度日本旧石器学会賞受賞者報告、役員選挙について、関連学会情報、お知らせ

第32号 2016年4月：第8回アジア旧石器協会日本大会のご案内、2016年度日本旧石器学会総会のご案内、日本旧石器学会研究グループ2015年度活動報告、2015年度日本旧石器学会普及講演会の開催（報告）、役員選挙結果のお知らせ、関連学会情報、お知らせ

渉外委員会

・APA執行委員会との日常的連絡調整

・2016年開催予定のAPA日本大会の準備と、準備状況のニュースレターを通じた会員への報告

なお、日本旧石器学会会長、副会長、総務委員会、研究会企画委員会、渉外委員会で構成する2016年APA日本大会実行委員会を組織することについて2015年度総会で承認されたので、今後の準備作業は実行委員会が行う。

研究会企画委員会

（1）活動内容

・第13回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催：

資料3 日本旧石器学会 2015 年度予算(単位:円)

収 入				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,205,000	1,215,000	-10,000	会員241名×5,000円
2 その他の収入				
会誌頒布代金	300,000	300,000	0	50部×4,000円=200,000円、バックナンバー及び委託販売分100,000円
シンポジウム予稿集頒布代金	192,000	156,000	36,000	会員60部×1,200円=72,000円、一般40部×1,500円=60,000円、バックナンバー及び委託販売分60,000円
前期繰越収支差額	1,848,390	1,782,022	66,368	
小計①	3,545,390	3,453,022	92,368	
支 出				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	90,000	80,000	10,000	総会シンポジウム・役員会等会議費・会場設営費、他
旅費交通費	120,000	90,000	30,000	総会シンポジウム発表者交通費補助、国際会議旅費補助、他
通信運搬費	260,000	250,000	10,000	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、他
消耗品費	20,000	30,000	-10,000	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,250,000	1,150,000	100,000	会誌、シンポジウム予稿集、ニュースレター3通、パンフレット、他
諸謝金	40,000	50,000	-10,000	公開講座・普及講演会講師謝金、他
委託費	64,800	64,800	0	HP管理・メーリングリスト構築運用委託
次回APA日本大会経費積立	200,000	200,000	0	
研究グループ運営経費	0	30,000	-30,000	
シンポジウム開催準備費	10,000	30,000	-20,000	実行組織連絡費、事前検討会経費、他
日本旧石器学会賞関連経費	40,000	90,000	-50,000	賞状、副賞、他
雑費	25,000	25,000	0	郵便振替、銀行振込手数料、他
予備費	1,425,590	1,363,222	62,368	
小計②	3,545,390	3,453,022	92,368	
小計①-小計②	0	0	0	

2015年6月20・21日の2日間、宮城県仙台市の東北大学片平キャンパス・さくらホールにおいて第13回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムを開催する(詳細は本ニュースレター開催報告のとおり)。

・2016年度APA日本大会の準備

(2) 課題

・大会の構成、シンポジウム内容の決定方法について

現状では、研究企画委員会が協議し、会長、副会長、総務委員長の承認を受けて決定している。協議の中で、他委員会所属の役員にも周知し、意見を求めたほうがより有意義なシンポジウムが開催できると思われる。研究企画委員会が主体的にテーマ等を設定するが、今後役員メールなどを通じて適宜協議したいと考えている。

・発表者の応募資格について

第13回大会の研究発表には、学会員以外の応募があった。これは応募資格の中に、「学会員および学会員から推薦を受けたもの」という文言が入っているためだが、現在特に規定はない。ポスターセッションは「発表者には必ず学会員が含まれる」ように募集している。同様の応募資格にしたほうがよいと思われる。

データベース委員会 2015年度の活動計画は以下のとおり。

(1) 総会での審議を経て、学会ホームページ上に旧石器DBを公開することについて告知(会員の皆様からの意見収集)。続いて、ウェブ公開のための承諾書(返信用ハガキを同封)

を執筆者各位に発送し、了承を得る(なお、今後の更新のために、更新後の旧石器DBの扱いについても、本会の決定に委ねてもらうように依頼する)。2015年9月末頃にウェブ公開。

(2) 旧石器DBの更新のための準備。旧石器DB第二版の編集については、2016年APA後に本格的な作業に入る予定。2010年データベース加筆・修正については、随時進める。

入会資格審査委員会 幅広い分野にわたる方々の入会が増えたことにより、審査のための論文参照が難しくなっている。そのため、入会申し込みにおいて申請論文の一部をCDなど電子媒体での提出をお願いする。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR、のために、普及講演会の開催、教科書問題、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講座を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努める。

・西日本会場：近年の隠岐黒曜石原産地の調査について、岡山において考古学研究会と共催で開催する案で調整中。日時：2016年1月9日(土)(仮)、場所：岡山大学、内容案：隠岐久見高丸地点の発掘調査、島前島内の踏査報告、隠岐産黒曜石の広がり概説などを検討中

・東日本会場：未定。会場、共催相手等を模索中

2. HPでは、単に情報提供だけでなく、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコン

テンツを追加する。地域と時期的な偏りを減らす努力。

3. 教科書問題の対応として、HP に子供向けの旧石器時代解説コンテンツ「旧石器時代の教科書」を充実させる。

4. HP のあらたなコンテンツ追加を検討する。

5. HP へのアクセスを増やす方策を検討する。

※FB の立ち上げとHP へのリンク。役員のシェアによる情報の広がりを検討

6. その他、旧石器時代関連の周知に関する共催事業を実施する。

2014 年度日本旧石器学会賞受賞者報告

2015 年 4 月 19 日に日本旧石器学会賞選考委員会を開催し、学会賞候補者 1 名、奨励賞候補者 2 名を選考しました。それを受け、5 月 23 日に役員会においてそれを了承、決定し、6 月 20 日に総会において授賞式を行いました。2014 年度の受賞者は以下のとおりです。

2014 年度学会賞受賞者：須藤隆司氏（明治大学黒耀石研究センター）

2014 年度奨励賞受賞者：鹿又喜隆氏（東北大学）・森先一貴氏（文化庁）

なお、「選考理由」及び「受賞者の言葉」は、ニュースレター第 31 号にて報告します。

2015 年度学会賞の推薦

2015 年度日本旧石器学会 学会賞の推薦

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2015 年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補

2. 推薦期間：2015 年 10 月 15 日（金）～2016 年 2 月 15 日（月）（必着）

3. 推薦者の資格：日本旧石器学会員

4. 推薦方法：学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。

5. 注意事項：

・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。

・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限ります。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。

・推薦の書式は自由です。

・推薦理由は概ね 100 字から 300 字にまとめてください。

6. 応募先・照会先：

日本旧石器学会事務局（担当：伊藤健・山岡拓也）

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836

静岡大学人文社会科学部社会科学科山岡拓也研究室

電子メール jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

第 8 回 APA 日本大会について

「渉外委員会報告」にあるように、現在実行委員会では、第 8 回 APA 日本大会の開催準備を進めています。すでに 5 月に、ロシア・中国・韓国の国内旧石器学会に向けて、下記の内容で 1st Circular を送りました。

1. 会期：2016 年 6 月 24 日（金）～28 日（火）

会議 25～26 日、巡検 27 日

2. 会場：東京周辺（未定）

3. テーマ：Recent Progress of the Paleolithic Research in Asia

4. 要旨受付締切：2016 年 2 月 10 日

5. 会議登録料：海外 150US\$（予定）

6. 連絡先：apajapan@gmail.com

会員向けの案内と詳細は今後作成いたしますので、もう少しお待ちください。なお 1st Circular は、学会サイトで確認できます。

長期会費滞納者への対応について

長期会費滞納者に対しては次のように対応します。

1 当該年度を含め 4 年の会費を滞納した会員に対しては、当該年度当初から会誌等学会発送物を差し止め、会員の有する一切の権利を停止する。

2 住所不明であり、当該年度を含め 5 年以上の会費を滞納した会員は、退会の意志があるものとみなす。

3 当該年度を含め 5 年の会費を滞納した会員に対しては、会費納入を促した上で「学会会計処理の観点から好ましくないため、当該年度のうちに会費納入が認められなかった場合は、退会の意思があるものとみなします。会誌等の発送が差し止められている場合は、会費納入の際に送付を希望する会誌の号数を記入してください」と記載し、警告する。

補足：日本旧石器学会は会員の会費によって運営されています。また、会員は会誌等の送付の他、大会での発表、会誌への投稿、研究グループの応募、学会賞の推薦、役員選挙の投票など様々な権利を有しています。権利への対価という意味も含めまして、会費の納入を速やかにお願いたします。各会員の会費納入状況は、毎年 4 月もしくは 5 月に発行されるニュースレターに同封しています。わからない場合には、事務局までお気軽にお問い合わせください。

また、退会する場合には、事務局まで速やかに申し出ください。

2015 年度日本旧石器学会役員会

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

会 長：佐藤宏之

副会長：藤野次史

総務委員会：*伊藤健 野口淳 山岡拓也

会計委員会：*岩谷史記 鈴木美保 越知睦和 (委嘱)

会誌委員会：*絹川一徳 門脇誠二 鎌田洋昭 沢田敦

藤田尚 西井幸雄 (委嘱)

ニュースレター委員会：*高倉純 氏家敏之 笹原芳郎

野口淳 藤野次史

渉外委員会：*出穂雅実 絹川一徳 鈴木美保 野口淳

森先一貴 佐野勝宏 (委嘱)

研究企画委員会：*芝康次郎 鈴木美保 高倉純

藤田尚 森先一貴

データベース委員会：*鹿又喜隆 軽部達也

入会資格審査委員会：*笹原芳郎 藤野次史

広報委員会：*丹羽野裕 及川穰 堤隆 (委嘱)

日本旧石器学会賞選考委員会：*島田和高 佐藤宏之

藤野次史 伊藤健 芝康次郎 (*は委員長)

会計監査委員：木崎康弘 宮田栄二

顧 問：赤羽貞幸

アジア旧石器協会執行委員 佐藤宏之 (副会長) 出穂雅実

野口淳

関連学会情報

第 41 回 九州旧石器文化研究会 (福岡大会) のご案内

2015 年 10 月 31 日 (土)・11 月 1 日 (日) に九州歴史資料館 (福岡県小郡市) で開催します。

テーマは「筑後川流域の旧石器文化」です。これまでの研究において、筑後川流域の旧石器遺跡群については、地域ごとに取り上げられることはあっても流域全体を俯瞰する視点や議論は殆どありませんでした。今回、筑後川流域の様相を検討することで、あらためて西北九州と東九州、中九州とのつながりや流域内の動向を明らかにできたらと考えております。福岡県内の遺物も見学できるようにしますので、ふるってご参加ください。詳しくは福岡旧石器文化研究会ホームページ「ハカタントロプス」に掲載しますのでご覧ください。

お知らせ

メーリングリストの運用について

既に何度かご連絡しているようにメーリングリストの運用を行っています。これは、学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。ただ、運用から 1 年以上がたちましたがまだ会員の 3 割程度の方にしか登録いただけていません。まだ登録していない会員諸氏におかれましてはメーリングリストにご登録ください。メールアドレスを、総務委員の山岡のメールアドレス (takuyayamaoka@yahoo.co.jp) までお知らせください。速やかに利用できるようにします。強制するものではありませんが、ご協力をお願い申し上げます。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されているため、会費は原則前納とさせていただいております。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の支払い手続きをなされますようお願い申し上げます。年会費は 5,000 円で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号 00180-8-408055 です。全国の郵便局にて簡単に手続きいただけます。

なお、転居された方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、当会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載していただくか、または事務局までメール等でご連絡ください。

日本旧石器学会入会申込手続きについて

日本旧石器学会入会申込につきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード (<http://palaeolithic.jp/join.htm>) し必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送で送付してください。本年度から、入会申込書には、申請論文等のうち一本を CD などの電子媒体に書き込んだものを添付するようお願いしています。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第 30 号
2015 年 9 月 18 日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会
高倉純・氏家敏之・笹原芳郎・野口淳・藤野次史

発行：日本旧石器学会

事務局：〒 422-8529 静岡市駿河区大谷 836
静岡大学人文社会科学部社会学科山岡拓也
研究室

E-mail jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>